

東京鷹桜同窓会報



『やませ蔵』長井市あら町より

巻頭の言葉

高石 賢一

株式会社アド・コンサル
代表取締役社長



私たちが長井高校へ入学したのは昭和26年。当時は戦後が色濃く存在していたときで、各村からの進学者は十数人と少なく、パンの配給も高校一年迄存在していた。戦後、日本経済は11の景気循環を経験しているが、私たちが高校へ入った頃、朝鮮戦争ブームで戦後の不況からようやく脱出しつつあるときであった。昭和29年、青春の多感な3年を過ごした私たちは、山形へ残る友人らと別れ、過半数が東京へ新天地を求め集団就職したり、大学へと進学した。

北の旅人たちが、しあわせを求め経済的安定を求めた結果、東京を中心に家庭を持ち、生活の基盤を築いてきたわけである。いつしか、同級会が自然発生していた(29年記事参照)。私たちの同級会への思い入れは、他県出身者より強い。雪国に育った地域特性で、ぬくもりを求めて青春回帰が強いのだろうか。いま日本経済は未曾有の不況と混迷期にある。しかし、私たちは鷹桜で育んだねばり強さで乗り切っていくだろう。21世紀に入っても、同窓会はもとより同級会を、いつまでも楽しく開催したいものである。(昭和29年卒)

わが道を行く

罪滅ぼしの為に始めた
風力エネルギー屋

黒沢 俊雄

(株式会社スリーイー)



科学技術が発達し、物質的には豊かになった。その為人類は大量のエネルギーを消費してきた。その多くを、化石燃料に依存してきたが、資源の有限性とと言う深刻な問題に直面している。例えば石油

と天然ガスを現在のペースで使用すれば、49年で枯渇する。化石燃料の代替エネルギーとして登場したのが原子力であったが、その燃料であるウランは、従来の原子炉では60年で、高速増殖炉を使用しても、3000年で使い切ってしまう。

化石燃料の大量消費は、酸性雨や地球温暖化など環境問題を招き、生態系に重大な損傷を与えて来た。その結果、種の保存さえ危うくしている。また、気象変動によって被害を受けている地域や海面の上昇によって消滅の危機にある島々や国々もある。これらは、皮肉にも高度に発達した文明社会の作り出した作品(結果)なのだ。私たちは、これらの作品制作に加担して来た事になる。

「神の作り給う自然は永遠に尊く、

人の作りし物ははかなく空しい。」

世界では、石油危機を契機に自然エネルギーの開発が進められ、その中で、風力発電の実用化が最も早く実現した。1992年リオで開催された地球サミット以降、長足の進歩を遂げた。

風力発電とは、風の力を利用して翼を回転させ、回転力を発電機に伝達し、電気エネルギーに変換させる働きである。現在、一機で1000kw以上の発電能力を持つ風力発電機も実用化されている。

風力の長所は数多く有るが、第一にクリーンである事だ。風力は、CO₂やNO_xを排出せず、地球に優しく無尽蔵にある。現在、実用性の最も高い再生可能なエネルギーと言えよう。

欧米では、風力開発は政府の肝入りで進められ、風力発電は、既に、電力供給の重要な位置を占めるようになった。世界の風力発電の総発電量は、850万kwで、そのうち最も進んでいるドイツのそれは280万kwである。これは、最新鋭の原発2機分

に相当する。これに対し、日本はドイツの1%に過ぎない。ドイツと言えども、十年前は、現在の日本と同水準であったし、日本には有望な風力の適地が多いので、十年もすれば、現在のドイツと同水準に到達する事も不可能ではない。

私は、勉強より物作りが好きで、得意(?)であったので、母校を出てから早大の理工学部に進んだ。四年の時、教授から「原子力の平和利用をする会社がある。」と勧めがあった。教授の勧めも上手かったが、平和利用が気に入った。それに、当時、東大の原子核研究所の若き研究者であった堀越源一氏を憧れていた事も手伝って三菱原子力(今の三菱重工の原子力本部)に入った。先生は生家が隣り合わせであったので、相当年上であったが、子供の頃は、気安く「ゲンちゃ」と呼ばせてもらっていた。のち、高エネルギー物理学研究所教授になられた母校の大先輩である。入社当時、原子力は未知の世界であり、先端技術に夢と希望を膨らませ、多くの事を学ばせて頂いた。

十年ほど勤めた会社を後にして、友人と小さなソフトウェアの会社を起こした。三菱から原子力の安全管理システムを受注したり、新幹線の運行システムの開発などに参加出来て、幸運であった。やがて会社は成長し、株式の公開が出来た。

五年前、後進に後を譲って、自然エネルギーの会社を始めた。退職金を全部注ぎ込んでしまったが、愚痴一つ言わずについて来るマイネフラウは、いとおしくもあり、眩しくも見える。

思えば色々な事があったが、二十世紀の後半をがむしやりに走り続けて来た。この間、日本の経済成長を支えて来た自負もあるが、エコノミックアニマルの片棒を担ぎ、知らぬ間に、地球環境を台無しにしてしまった罪の意識も小さくない。

子供や孫達の為に何を残せるか。たった一つの地球という遺産を大切に残してやりたい。そんな思いで、小力なるが第三の人生は、自然エネルギーの発掘に使わせて頂いている。これで罪ほろぼしが出来れば幸いである。(昭和31年卒)

'98 同窓会総会 盛り上がる…

('98 11月14日 飯田橋・摩天楼にて)

笑顔・歌声・思い出、ここに再び…



前会長、高橋正二顧問がお元気に乾杯の御発声



御存知、名物恩師水野多門先生(ゲスト)の前で女学生に戻る中島コウ副会長



総会アトラクション『福引き』高橋俊龍会長の手はだれに幸運をもたらすのか?



ナント!! 『福引き』にて大豊作の母校現校長 漆山先生(ゲスト)のスピーチ この勢いで、母校の発展よろしくお願いします!!



最後は恒例全員総立ち、高橋会長を中心とした校歌です。担当幹事、昭和31年卒の皆様ありがとうございました!!

*** **

出席者総数110名余、例年通り会場中が高校生・女子高生に戻った一日でした。ここでは紹介できませんでしたが、二次会も例年以上の盛り上がり。

今年も多くの皆さんの御出席をお待ちしております。

29会の同級会は3年に1回開催

高石 賢一

昭和29年卒「29会同級会」は、昭和56年10月に東京・千駄ヶ谷で開催されたのが発端である。その後、昭和60年の母校招待日を機に、第1回の29会を開催した。その席上総会を開き、今後は東京・山形で実行委員会をつくり、3年に1回交替で開催することになった。

第2回以降の開催年と場所は、次の通りである。

第2回：昭和63年10月東京・湯島GH、第3回：平成3年長井・タス、第4回：平成6年千葉・幕張プリンスホテル、第5回：平成9年米沢・サンマリーナ玉庭。参加者は毎回120名前後である。

第7回は20世紀最後の65歳の同級会をいうことで東京・品川プリンスホテルで開催の予定である。29会の特色は、3年次のクラス会も活発化し開かれるようになったことである。それと、異色の存在として1年4組のクラス会も29会同様3年ごとに開かれている。写真は今年5月に、中学時代の



修学旅行地松島で開催された第5回・1-4会のスナップである。

東京で知り合った友人、知人は大勢いるが、懐かしい故郷の友人との再会は一味違う。青春時代へ一足飛びで、一杯くみかわしたとき、大きな幸せの気分ひたされる。こんなところが29会を楽しく支えているのだろう。

(29会東京開催実行委員長)

第ゼロ回東京鷹桜同窓会会長杯コンペ報告

残暑というより猛暑(当日最高気温33度)の一日であった9月8日、ナント!! 第ゼロ回東京鷹桜同窓会会長杯コンペが開かれました。

場所は千葉県フォージズンカントリークラブ、昭和30年卒の佐藤司朗さんが支配人をされているところです。

昭和49年卒から昭和20年卒の大先輩までの総勢17名の参加、女性は紅一点の昭和35年卒の坂本キミ子さんの参加でした。

猛暑の中、全員汗ビッシヨリの結果はといえば、優勝・ベストグロス共々、本年総会幹事学年である昭和45年卒の荘司信明さんが獲得されました。

総会などのパーティーでは、なかなかお目にかかれない表情や動きなど、実に様々な楽しいシーンの連続でした。

本当に暑かった一日であり、全員がタップリと日に焼け、パーティーのビールで更に赤くなりました。当日は高橋会長が急用にて欠場のため、第



ゼロ回となっており、第一回は来春に予定しておりますので奮っての御参加をお待ちしております。

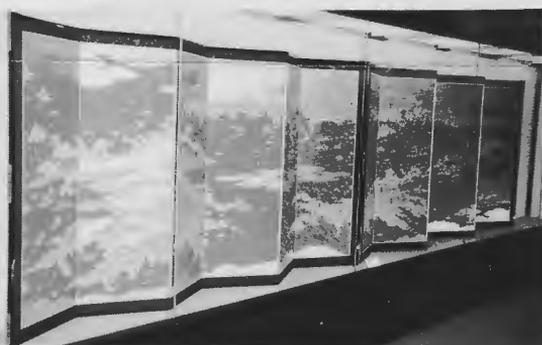
何から何までお世話いただいた佐藤司朗さんに改めて感謝申し上げますと共に、行きも帰りもまるで遠足のように楽しかったこのコンペが更に発展する事を期待したいと思います。

高橋会長、次回が第一回、よろしく願いいたします。

故郷・新名所・再発見 ～やませ蔵～

長井市あら町『やませ蔵』。まちの中の小さな美術館というキャッチフレーズそのままに静かなたたずまいを見せております。

『やませ蔵』は袖問屋として名高い『山清』竹田家の敷地内にある蔵を利用した美術館であり、竹林や苔むした石などがある日本庭園の中に点在しております。



蔵の数は5つ、明治時代に建てられたものであり、回遊式庭園の順路にそって、『東蔵』『南蔵』『新蔵』『みそ蔵』『質蔵』の構成となっております。

5つの内2つがイベント用、2つが常設展示用、そして『みそ蔵』が長井細の歴史がわかる展示品・資料用となっております。



住所 / ☎993-0006 長井市あら町6-61
電話 0238-88-9988 (FAX兼用)

入館料 / 一般500円、高・大学生300円
小・中学生100円、団体割引有

開館時間 / 10:00～17:00 入館は16:30まで
月曜が休館日 月曜が祝日の場合は
翌日が休館 12月～3月は休館



山清は、江戸時代から明治期にかけて最上川の舟運による商いで発展した商家の一つであり、享保年間に商売を始めたと言われています。

特に明治期以降、袖産業に力を注ぐようになりました。袖関係の資料や代々の当主が集めた美術コレクションから往時を偲ぶことができます。



常設展示は、陶磁器色絵皿展・袖問屋の歴史資料・伝承袖原画・型紙展となっており、その他に4月を振り出しに2か月ごとに特別展示が行われております。

取材時は、森川曾文・清原雪信などの屏風展と陶芸の長谷川恵子展が開かれておりました。



◇事務局からのお知らせ◇

(1) 活動報告 (平成10年分)

- 10月 総会案内発送作業 (モー吉)
昭和31年卒、同45年卒・事務局員などで
総勢約30名にて無事終了。
- 11月 総会 (飯田橋・摩天楼大飯店)
水野多門先生、小林征次郎前校長、本部
会長、現校長をお迎えし大盛会であった。
出席者110名余
二次会も約80名の参加で大変な盛り上り
であった。

活動報告 (平成11年分)

- 5月 事務局会議。
名簿整理作業、及び学年幹事会準備など。
- 6月 本部総会。
東京支部よりは昭和44年卒の事務局員、
佐藤いく子さんが出席。
- 7月 学年幹事会・役員会 (モー吉)
36名の出席、本年の幹事学年昭和45年卒
並びに事務局の発案による芋煮会総会の
企画が承認される。
- 8月 総会幹事学年昭和45年卒及び事務局の有志
による東京サマーランドの現地視察を
行う。
- 9月 会員有志によって第ゼロ回東京鷹桜同窓
会会長杯コンペを行う。17名の参加、

(2) 平成10年度会計報告 (平成11年 3月31日現在)

〈収入〉		〈支出〉	
前年度繰越金	780,343	総会費	871,800
年会費	867,270	事務費	211,598
総会費	721,000	会議費	30,000
御祝金	80,000	印刷費	342,892
本部より援助金	16,000	通信費	349,040
受取利息	36,742	税金	397
計	2,501,355	計	1,805,727
次期繰越金	695,628		

〈事務局より〉

今回の総会は、芋煮会を企画しました。平成8年度総会をピークに年々参加者が減少傾向にあり、何か歯止めになる妙案がないものかと思案してありましたところ、当会長が社長に就任された会社にて東京サマーランドも経営されているという好機を得ました。

そこで学年幹事会にて提案したところ「下見をした上で実現可能ならOK!」との御了解と会長の全面支援の確約をいただき決定いたしました。

交通アクセスと雨天の場合が最大の難問でしたが、割安なJRバスのチャーター、雨天でも十分に楽しめる充実した施設の確保など、解決する事ができ自信をもって決行する運びとなりました。

今回は、特別に開かれた総会ということとし、御家族や故郷自慢を許容して下さる御友人にもお声をかけていただき賑やかな御祭りのような総会にしたいものだと考えております。

奮って御参加下さいませようお願いいたします。

また、9月8日に同窓会有志によるゴルフコンペも実行いたしました。正式には来春に第一回東京鷹桜同窓会会長杯コンペを企画したいと思っております。御希望の方は返信用ハガキに「コンペ案内希望」と一筆添えていただければ幸いです。

「同窓会はエエものだ! おもっしやいごと一緒にスッペ!」を合言葉に事務局一同も楽しく活動したいと考えております。少ない仕事に多大な楽しみ、小さな責任に大きな達成感の事務局に皆さんも是非参加して下さい。

◇編集後記◇

猛暑の夏でしたが、会員の皆様はいかがお過しでしたでしょうか。故郷長井も現地取材当日の最高気温は35度でした。

芋煮会総会の企画、ゴルフコンペの開催など、同窓会活動も益々幅広く充実していく事が実感できる内容を皆さんにお届けできればと思います。

まずは、11月14日共に鍋を囲み笑顔溢れる皆さんをカメラに収めたいと考えております。